



アオギリ

天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。／昼は昼に語り伝え／夜は夜に知識を送る。／話すことも、語ることもなく／声は聞こえなくてもその響きは全地に／その言葉は世界の果てに向かう。

19 編の冒頭の言葉は神秘的で、壮大さを感じさせ世界の人々を魅了しています。宇宙、大自然の有様は人知を超え、驚異的であると誰もが感じています。しかしこの箇所は矛盾があります。話すことも、語ることもなく、声は聞こえないのに、天は「物語り、語り伝え、響かせている」というのです。「神の栄光」は見えるのではなく「声なき声(?)」を用いて、響かせていると言います。神の栄光とは太陽のような、花婿のような、勇士のような、天の果てから果てを目指して走る、熱を帯びたものだと、次に記しています。そして、第三段落でそれが「主の律法」とであると告げているのです。

律法は完全で、魂を生き返らせ、真実で、知恵、喜び、光を与え、純金より望ましく、密よりも甘いと賛美しています。律法とは「掟」であり、新約聖書では明確に「神と隣人を愛すること」と告げています。イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。(マタイ 22:37) 神の栄光＝律法＝愛であり、それは太陽のような光と熱と力を持ち、天を駆け巡ると歌っています。最後に、詩人はそれらのことを熟慮し順守し、謙虚に生きたいと告白しています。「讚美歌 21」ではグレゴリアンチャントの答唱の形で 118「天は神の栄光を物語り」をあげ、19 編の前半部分を歌っています。「讚美歌 21」には律法を賛美するという項目がないのは残念です。

参照 <https://www.youtube.com/watch?v=vsRYIVdDVCE&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=20&t=10s>

20 編は「王へ勝利を与えよ」と祈る賛歌です。苦難の中にいる王の捧げる供え物、生贄を受け入れ、願い、計画を実現させてくださいと神に求めています。戦車を誇る者もあり、馬を誇る者もあるが／我らは、我らの神、主の御名を唱える。彼らは力を失って倒れるが／我らは力に満ちて立ち上がる。(20:8) とは、イスラエルの王も民も、頼るものは武器、武具ではなく、神の御名であると歌っています。神の御名によって力を得ると信じています。

21 編は 20 編の続編のようです。勝利を与えられ、王が感謝を捧げています。主よ、王はあなたの御力を喜び祝い／御救いのゆえに喜び躍る。あなたは王の心の望みをかなえ／唇の願い求めるところを拒まず〔セラ 彼を迎えて豊かな祝福を与え／黄金の冠をその頭におかれた。(21:2) 世の権力者とは異なり、王は主に依り頼む。いと高き神の慈しみに支えられ／決して揺らぐことがない。(21:8) と、イスラエルの王は神に従う、主の僕でもあるのです。このような戦い方は、軍備、同盟による戦力で勝利を得るのではなく、神による勝利、即ちすべての人が等しく愛されているという信仰に立つ戦い方です。日本国憲法の前文で「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と同じ理念と言えるでしょう。「讚美歌 21」には 20 編、21 編の讚美歌はありませんが、神の力、平和を歌う多数の讚美歌があります。ジュネーブ詩編歌 20 はどこか懐かしいような、また、21 はリュートも加わった美しい曲です。(前出参照)

参照 <https://www.youtube.com/watch?v=EgqdRRbkd5I&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=21&t=0s>